デジタルを活用した新しい参画型の交通安全教育

道路空間整備システム構築プロジェクト

2020 年 11 月 11 日に長野県伊那市と大成ロテックは、移動者が安全で快適に自由に移動出来る道路空間を創出するために、「道路空間整備システム構築プロジェクト」に関する連携協定を締結。クルマ中心の社会から多様な移動手段の活用を促すため道路空間の再配分を検討する自転車活用推進法の施行や道路ビジョンが打ち出された大きな流れがあり、伊那市自転車活用推進の担当部署である商工観光部観光課が担当課となっている。

交通安全教育はどのように実施されていますか？

子どもたちは受け身になりがち

- ●コロナにより安全教教室が実施できない
- ●生徒主体での安全の呼びかけなどは少ない
- ●危ない！ダメ！理由が分かりにくい　受け身の交通安全教育が多い
  →楽しくない…

教育の現場ではデジタル化が進む
GIGAスクール構想

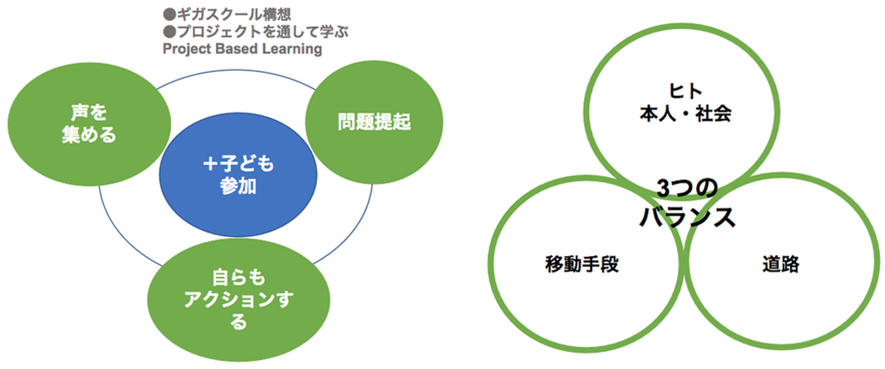
- ●学び方が変わっている
- ●参加型になってきている
- ●自分で考えて行動に移す力を養う

自転車の通学空間
長野県の伊那市立春富中学校の生徒と考える

河岸段丘が多い、学校区が広い、通学時間も長い、産業が活発
クルマ利用者では気づかない危険な環境で通学していた

- 2021年2月　アンケート調査
- 2021年5月　交通安全講話 1回目
- 2021年7月　デジタルアンケート調査
- 2021年10月 安全講話2回目 通学路現地調査
- 2022年3月　オープン報告会で発表
- 2022年5月　全校生徒でヒヤリハットグッドマップ 作成
- 2022年6月　オープン報告会での対策検討

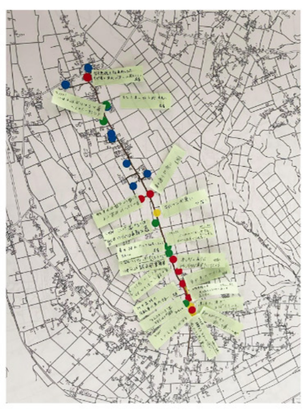
大切にしていること



安価にできることは協力してすぐにやる、計画や大きな予算が必要なことは中長期的に

●実績① 新たな交通安全教育

全校生徒によるヒヤリハットグッドマップの作成



●実績② 新たな交通安全教育

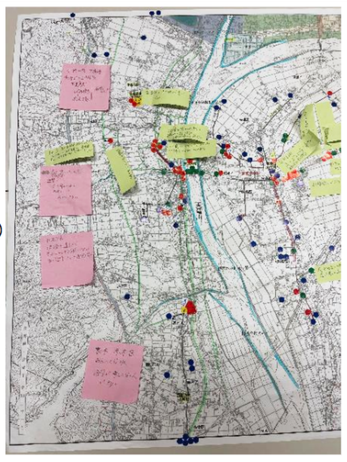
中学生参加による解決策の検討

https://www.youtube.com/watch?v=kni2quS2lhQ

問い合わせ：道路空間整備システム構築プロジェクト事務局
長野県伊那市役所商工観光部観光課　0265-78-4131
22696@inacity.jp　　http://www.inacity.jp/

●実績③ 新たな交通安全教育×大人の参画

市役所内、地区住民、PTAなどとの連携



●実績 新たな交通安全教育

いろいろな方から頂いた声など

- ●クルマ以外の子ども・住民視点を満遍なく取り入れている
  （伊那市職員）
  高齢化社会や多様な移動手段が走る時代に対応
- ●生徒が通学空間の点検整備に貢献する伊那市がトップランナー
  （国交省 金籠参事官）
- ●地域住民が主体的に動いている（中組、渡場地区など）
- ●危険な道路を直す以外の、通学自転車や持ち物、
  通学ルート、空間の使い方の見直しなどの方法を検討
- ●GIGAスクール構想を使った新しい交通教育のかたちのではないか
  （北陸大学三国先生）
- ●交通安全が自分事になった（元春富中、東部中 有賀校長）

国・伊那市の政策とプロジェクトの位置付け

国交省
文科省
警察庁
総務庁
経産省

- 自転車活用推進本部
  - 自転車活用推進法制定(2017)
  - 省庁横断的取り組み
  - 第2次計画策定(2021)
  - 地方版自転車活用推進計画
- 事務局長：道路局長
  - 伊那市自転車活用推進計画策定(2020)
  - 観光振興
  - 市民のQOL向上
  - 伊那市自転車計画準備委員会
  - 伊那市自転車計画策定協

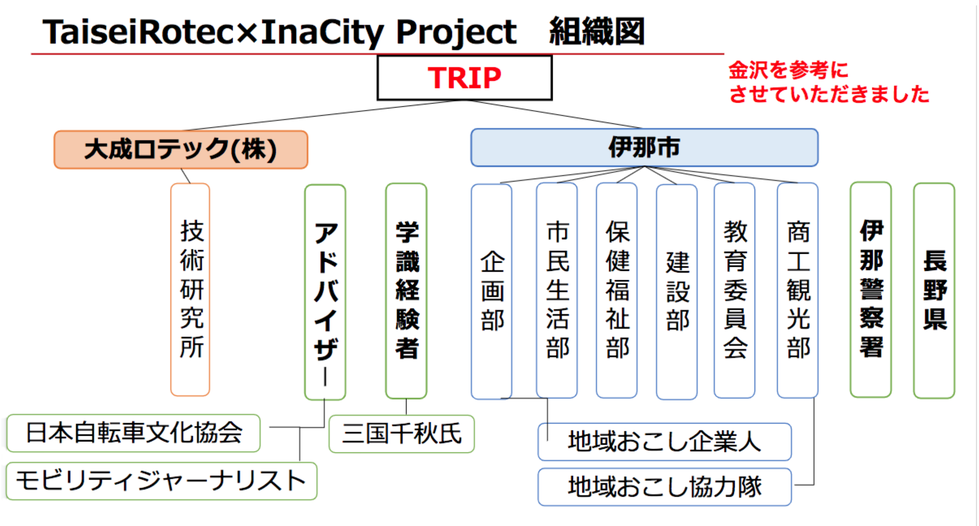
連携協定締結

道路空間整備システム構築プロジェクト

- ２０４０道路ビジョン
- 庁内横断 連携会議（TRIP）
- 伊那市
- 大成ロテック（株）

クルマ以外の移動手段を尊重
道路の再配分・空間整備
使い方などの見直し

TaiseiRotec×InaCity Project　組織図



●実現したい地域社会

地方都市に着目

地方都市の「通学空間」を
住民参画型で安全で快適にするため
デジタルを用いた手法を確立する

観光客も安心して楽しめる
多様なモビリティが活躍
高齢者も外出ができ移動寿命・健康寿命が長い
一生涯安心な地域

未然に事故防止
安全で楽しい通学づくりの仕組み「IaaS/RaaS」

伊那市版：Ina as a Service＝IaaS（アイアース）
全国版：Road as a Service＝RaaS（ラース）

デジタル活用とリアル活動の両輪　持続可能な横断的な組織と仕組み